

諫高同窓会々報

長崎県立諫早高等学校
同窓会事務局
TEL 22-1222・FAX 22-5104
http://www.news.ed.jp/isahaya-h/
編集 馬場 秀樹
印刷 諫早印刷株式会社
TEL 22-1350

コロナ禍のなかで



同窓会々長 池田 光利
(高校二十回・昭和四十三年卒)

同窓会の皆様には、同窓会活動に深くご理解ご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。
令和二年度は、コロナ禍の中での同窓会活動を

なっております。このような状況下で関西支部は昭和三十五年(一九六〇年)の発足より六十年を迎えられ、諫早高校同窓会 関西支部 発足六十周年記念誌」を十一月一日に発行されました。真崎支部長をはじめ役員・会員の皆様方の九十五ページにわたる記念誌発行への情熱に深く敬意を表します。

年附属中学校創立十周年、今年諫早高校創立百周年を迎えます。同窓会では、新型コロナウイルス対応として、教室用パソコン十台の購入、タブレット五十台の通信容量の拡大(7G→50G)整備を、創立周年記念事業のひとつとして昨年実施しました。

の選手構成で、成績は十七位と昨年の八位には届きませんでした。来年へ繋がるものと思えます。そして諫高陸上部駅伝男子が、十一月の長崎県大会へ四年ぶりに出場し、四十一校中十四位の成績でした。前年まで部員不足のため参加できなかったのですが、これは嬉しいニュースでした。それから、昨年三月第七十二回卒業の後輩諸君が、進学において好成績を収めてくれました。

諫早高校創立百十周年・附属中学校創立十周年開幕行事



校長 原田 尚之

同窓会員の皆様には、平素より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年十二月に京都市で開催された女子第三十二回全国高等学校駅伝競走大会において、本校陸上部女子チームが出場するにあたり、諫早高校駅伝後援会からご支援のお願いをいたしましたところ、多くの同窓会員の皆様からも募金をお寄せいただきました。皆様のご支援に対し、心より厚く御礼申し上げます。コロナ禍の中選手達の調整も

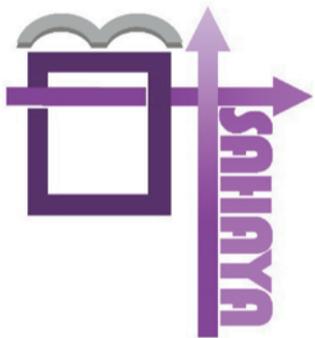
難しく、前回八位入賞の成績を上回ることはできませんでしたが、皆様の温かい支援や応援のおかげで選手達は最後まで諦めず一生懸命頑張りました。今後とも一層のご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

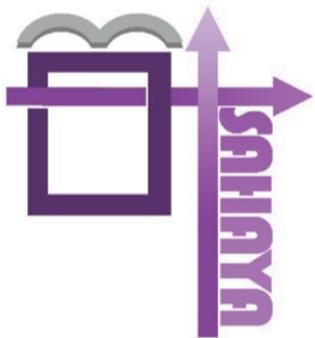
開幕行事では、地元諫早で活躍されている三人の方をパネリストにお迎えしてパネルディスカッションを行いました。コロナ禍の中、会場である第一体育館で参加する学年と各日R教室でWeb会議システムを活用して参加する生徒に分けて「三密」を回避して行いました。その際に使用したノートパソコンの一部は同窓会のご支援をいただきました。ご支援に心より感謝申し上げます。

は、パネリストの方は職員で選ばせていただきましたが、その後のテーマの決め方や進行方法は、グローバル講演企画チーム(生徒有志)の熱望により生徒達が行いました。企画チームの生徒達は、web会議システムを活用して何回もパネリストの方と打ち合わせを

スローガン 『Restart～軌跡をたどり、奇跡をつくる～』

シンボルマーク



漢字の「百十」と「叶う」という字をかけている
「」は眼鏡橋と本(勉強・努力)をかけている
矢印は、進むべき方向「未来」や「上昇」をあらわしている



スローガン発表の様子



パネルディスカッションの様子

「Restart」軌跡をたどり、奇跡をつくる。これからの諫早高校、附属中学校の新しいスタートを切るにふさわしい、全校生徒参加型のパネルディスカッションだったと思います。

新型コロナウイルス感染症については、先のこととが全く見通せない状況ですが、本校の教育活動は、その教育的な効果と感染予防との両立を図りながら今後も進めてまいります。そのような中、学校活動の様々な局面で、生徒が主体的に活動し、対話を通じた多様性との出会いの中で、未来の創り手である生徒がさらに大きく成長していくこと

令和二年においては、新型コロナウイルス感染症のため、二回の臨時休業を強いられました。本校では、「with コロナ」と言われる時代に「感染症のリスクを極力低下させながら、やれることは実施する」という姿勢で教育活動を行ってまいりました。

臨時休業期間中における学習については、自宅学習の生徒と教職員がインターネットでつながり、課題の配布や提出、質問の受付や回答等を行いました。

卒業式及び入学式は、卒業生もしくは新入生とその保護者、教職員のみとし、密の状態を避けるよう座席の間隔を空ける等工夫しました。

始業式や終業式は、校内放送やテレビ会議システムを活用し、生徒は各教室に分かれて校長講話を音声や動画で視聴しました。

九月の体育大会はトランスコスモスタジアム長崎で開催しました。平日にもかかわらず、メインスタンド三階には、保

を期待しているところであります。同窓会員の皆様におかれましては、本校の教育活動に對しまして、今後とも一層のご協力、ご支援を賜りますことをお願い申し上げます。

最後になりますが、会員の皆様は今後ますますのご発展とご健勝を祈念

護者をはじめとするたくさんの方の御覧いただき、感謝申し上げます。新型コロナウイルスに伴う臨時休業以降では、中高六年が一室に集う初めての学校行事となりました。

一月の校内マラソン大会は、中高で実施時間帯をずらしたり、一部内容を削減したりすることで、会場の県立総合運動公園での滞在時間を極力短くする工夫を行いました。密の状態を避けるだけでなく、寒さ等で体調不良につながるようには配慮いたしました。

秋に開催する予定だった文化祭は、三月に延期して、文化部合同発表会と合わせて諫早文化会館で実施する予定です。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながらの教育活動の展開は当面継続する模様ですが、「感染症のリスクを極力低下させながら、やれることは実施する」という姿勢で、生徒の充実した学校生活につながるよう力を尽くしてまいります。

申し上げます。また、同窓会で整備いただいた御書院の池は、池底が見えるほど水質が良くなり、生徒ならびに教職員一同、大変感謝しています。帰郷の折には、是非、母校にお立ち寄りください。

お礼—令和二年度全国高等学校 駅伝競走大会出場に際して

都大路を終えて

陸上部女子主将
戸村 文音

昨年行われた全国高校駅伝大会では、新型コロナウイルス感染症の流行で制限される中、たくさんのご支援とご声援、ありがとうございました。結果は一時間四十分四十八秒で十七位となり、目標であった都大路五位入賞を達成することができませんでした。昨年の都大路八位入賞を上回る結果を出そうという気持ちで、この一年、練習に励



んできました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、今まで当たり前のようにあった大会や練習ができなくなり、落ち込んだり、「県大会や都大路は開催されるのか」と不安な気持ちでいっぱいになったりしました。その中でも、自分達ができることは何かを考え、全員で声を掛け合いながら頑張ってきました。大会や練習が制限なくできることは当たり前



3区 藤丸

2区 川口

ではないということを感じました。県大会では、無観客での開催でしたが、襷を繋ぐことができ、駅伝ができる喜びを噛みしめながら小浜路を駆け抜けました。都大路では、沿道での応援自粛や競技場内無観客の中でしたが、一年間、目標と

心での襷リレーとなりましたが、全員が全力を出し切りました。今年こそは都大路で入賞できるように、よりいっそう精進して参ります。このような状況にも関わらず、同窓会をはじめとするたくさんの方々から応援してくださり、それが私達の大きな力となりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも日々の練習に励み、努力して参りますので、応援よろしくお願い致します。



シリーズ「おしどりの池」⑬

富永 恵美子 (三十一回生)

教員人生を振り返ると、教員採用試験は長崎大水害で延期となり、まだ泥や木々が残るなか長崎西高校に受験に行きました。高校総体で諫早に

来ている時に普賢岳の大爆発があり、救急車が行き交う様子が呆然としました。そして、今年度、新型コロナウイルスによる

てこんな自由で、自分達が考えて行動できる余地があるんだ」と感動したことを覚えています。もちろん、「自立創造」の校訓のもと自分達で考えて行動する機会あることに言われ、求められてもいましたが、自分達が考え行動するということの源だったと実感しています。

そして教員として接する後輩達が「今の諫早高校」を楽しみ、新しい「自立創造」を実践している

コロナ禍の苦難を乗り越えて

定時制
教務主任 森山 悠

令和二年度は新型コロナウイルス感染症により様々な行事が中止となる中、ようやく二学期になり対策を講じながら行事を実施できるようになった。まずは、二年に一回のバス遠足。皆が楽しみにしていた行事の一つで、今回は長崎に住んでいないがあまり行ったことがない観光地「稲佐山」を訪れた。展望台のある場所までスロープカーに乗ったり、歩いたりして

十月末に規模を縮小し文化祭を開催。生徒会と文化祭実行委員が催しを盛り上げた。三密を避けるため体育館で実施し、マスク、検温、消毒の徹底、家族のみの入場制限、一時間三十分程度の開催となったが、各学年が作成した展示物などを見て回り十分楽しむことができた。

十一月末には中地区体育大会が実施された。ここでも新型コロナウイルス感染症対策のため球技は接触の少ないバドミントンと卓球、将棋・オセロはシールドマスク着用での開催となった。開会式もソーシャルディスタンスを保つ為にグラウン



普通に行われてきました。新型コロナウイルス感染症の流行により世界中で多くの人が呻吟するという厳しい状況下で、同窓会総会・懇親会をはじめとして、各回・支部の活動も変更を余儀なくされ、残念な思いをされた会員の方も多かったことと思います。本校も臨時休業を余儀なくされた時期がありましたが、現在、生徒達は感染予防に努めながら、日々の活動に励んでいます。そのような中で、原稿執筆や情報提供をいただきました皆様方、本当にありがとうございます。

不易と流行

東内 敏 紀 (四十九回生)

卒業して二十三年。諫早高校は、私が生徒の時に変わらぬ風格で迎えてくれました。毎日部活動で、暗くなるまで走り回ったグラウンド、他愛もない会話に笑い転げた教室、季節の移り変わりを感じた御書院や中庭。様々な思い出が、昨日の

ことのように湧き上がってきます。昨今、社会は技術革新やグローバル化によって次々と新しい価値観が生まれて、大学入試さえも変化しています。また、今年度はCOVID-19によって、今までの当たり前が、好むと好まざるとにかか

ならず、変化を強要されてきました。しかし、今の生徒達は、そのような環境下でも明るさを失わず、自立して積極的に学びを深めています。オンラインを駆使し、新しい世界を創造し続けています。良き諫早高校の伝統を引き継ぎ、進化し続ける諫早生。彼らの未来が、光り輝きますように。



編集後記

新型コロナウイルス感染症の流行により世界中で多くの人が呻吟するという厳しい状況下で、同窓会総会・懇親会をはじめとして、各回・支部の活動も変更を余儀なくされ、残念な思いをされた会員の方も多かったことと思います。本校も臨時休業を余儀なくされた時期がありましたが、現在、生徒達は感染予防に努めながら、日々の活動に励んでいます。そのような中で、原稿執筆や情報提供をいただきました皆様方、本当にありがとうございます。例年に比べボリューム感は減りましたが、おかげさまで今年度も同窓会会報を発行することができました。会員の皆様におかれましては、ご自宅でご一読いただき、母校に思いを寄せていただければ幸いです。

本年度から諫早高等学校附属中学校創立十周年、諫早高等学校創立百十周年の記念事業が開幕いたしました。開幕行事の「人生の達人セミナー」のパネルディスカッションでは、同窓会生の方々をはじめ、地域の方々などにお力添えをいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

今回の創立周年記念事業の「Prestart」は「軌跡をたどり、奇跡をつくる」です。会員の皆様と教職員、生徒が力を合わせて伝統を引き継ぎ、明るい未来を築いていけたらと思います。